

# 第1学年国語科学習指導案

単元名 「昔話とその元である古典を読み比べ、古典の世界を紹介しよう」

教材名 「竹取物語」（東京書籍「新しい国語1」）（光村図書「国語1」）

## 1 単元について

小学校学習指導要領解説国語編の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度を育てることや、国語の果たす役割や特質についてまとまった知識を身に付け、言語感覚を養い、実際の言語活動において有機的に働くような能力を育てることに重点を置いて構成されている。小学5年生の国語の教科書には「竹取物語」「徒然草」「平家物語」、6年生の国語の教科書には「論語」などの漢文が載せられている。従って、生徒は小学校の学習において、親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読ができるようになっている。

本単元は、中学校における古典学習の導入である。そのため、古典に興味をもち、古典に親しむ態度を育てる必要がある。また、小学校で古典に触れてきた経験を想起させ、古典には様々な種類の作品があることについて具体的に理解できるように指導する必要がある。

本教材「竹取物語」は「物語の出で来はじめの祖」として、現在伝わっている日本の物語の中では最も古いものとされており、竹取の翁が竹から見つけたかぐや姫の成長、帝や貴公子の求婚や失敗、かぐや姫の月への帰還が主な話である。教科書では、冒頭の部分と帰還の部分について、原文と現代語訳が載せられている。文語で書かれた原文の左側には歴史的仮名遣いの読み方が付せられており、生徒が文語のきまりや音読の仕方などの古典の基礎を学ぶのにふさわしい教材であると考えられる。今回の学習は、「竹取物語」をはじめとして「浦島太郎」「一寸法師」「わらしべ長者」などの昔話と、それらの原典である古典を比較して読み、その内容の違いや古文の特徴を紹介する活動を通して、古典の世界に触れ、古典には様々な種類の作品があることを知らせることをねらいとする。また、「竹取物語」以外の古典については、古典を読むことについての抵抗感を減らすために、古典の原文は扱わず、分かりやすい現代語訳を古典として扱うことにする。

指導に当たっては、中学校学習指導要領の第1学年「読むこと」の指導事項カ「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること」及び、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導事項(1)ア(ア)より、「文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること」と(イ)より、「古典には様々な種類の作品があることを知ること」を目標とする。

「読むこと」の指導においては、情報を効果的に読み取るために、必要な部分に印を入れたり、必要な部分を抜き出したりする方法を指導する。また、一冊の本を最後まで読む、大事な箇所を読む、多くの本に目を通すなど、多様な読み方があることも確認する。

〔伝統的な言語文化に関する事項〕の指導においては、小学校で古典に触れてきた経験を想起させ、古典には様々な種類の作品があることについて具体的に理解できるように指導する。

## 2 単元の目標

- (1) 古典の文章に関心をもち、進んで古典に触れようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 現在も読まれている昔話とその元になった古典の現代語訳を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴について紹介することができる。(読むこと)

(3) 文語の決まりや音読の仕方を知り、古文を音読して古文特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れ、古典には様々な種類の作品があることを知ることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 3 本単元における言語活動

昔話とその原典である古典を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴について紹介する。(関連：言語活動例 ウ)

### 4 単元の評価規準 ( ) 内は該当する指導事項等の記号

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①古典の文章に関心を持ち、進んで古典に触れようとしている。	①現在も読まれている昔話とその元になった古典の現代語訳を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取っている。(カ)	①文語のきまりや音読の仕方を知り、古文を音読して、古文特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れている。(ア(ア)) ②古典には様々な種類の作品があることを理解している。(ア(イ))

### 5 指導と評価の計画 (全5時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	1 「かぐやひめ」の昔話を思い出し、古典「竹取物語」との関係に興味を持ち、単元の学習の見通しをもつ。	○生徒の記憶を喚起するような発問をする。 ○学習計画表を使って、単元の学習の見通しをもたせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">[国語への関心・意欲・態度] ① 観察, 学習計画表</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">[言語についての知識・理解・技能] ① 観察, ワークシート</div>
		2 「竹取物語」の古文の冒頭部分を音読する。	○音読練習を繰り返し行い、古文のリズムに慣れさせる。	
3 歴史的仮名遣いを確認する。		○教科書「古典の仮名遣い」を読み、現代の仮名遣いとの違いを知らせる。		
4 文語の決まりや音読の仕方を確かめるために、「竹取物語」の古文の冒頭部分を音読しながら視写する。		○古文を、意味のまとまりごとに、正確に書き写させる。		
	2	5 「竹取物語」を読み、大体的内容をつかむ。 ・古文と現代語訳を交互に読む。 ・現代語訳を確かめ、大体的内容をつかむ。	○古文を音読させ、語注や解説を手掛かりに語句の意味を理解させながら、物語の大体的内容を捉えさせる。 ○昔の人のものの見方や考え方を読み取らせ、生徒自身と比べさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">[読む能力] ① 観察, 学習計画表</div>

二	3	<p>6 「浦島太郎」「一寸法師」「わらしべ長者」3つの昔話の中から、紹介したい作品をグループで決める。</p> <p>7 昔話の絵本と、その原典である古典の現代語訳や関連資料などを読み、どのようなことを紹介したいか考える。</p>	<p>○3つの昔話とその原典である古典とを読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介することを意識付ける。</p> <p>○あらかじめ用意した資料・絵本を配布し、そこから情報を得させる。</p> <p>○昔話とその原典である古典との共通点や相違点を調べさせる。</p>	<p>[言語についての知識・理解・技能] ② 観察, ワークシート</p>
	4	<p>8 資料集や学校図書館の資料を用いて、昔話やその原典である古典について調べたいことを調べる。</p> <p>9 グループで紹介したい内容を絞り込む。</p> <p>10 紹介するために必要なフリップを準備する。</p>	<p>○時間を決めて作業に取り組ませる。</p> <p>○生徒の興味・関心に応じて、古典の成立した時代背景や、作品の内容について解説をした本や文章を紹介する。</p> <p>○本の一部を読んだり、資料の一部を抜き書きしたりして必要な情報を集めることを指示する。</p> <p>○限られた発表時間（3～5分）でポイントを絞った発表をするよう注意を促す。</p> <p>○必要に応じて古典の一部を引用したり音読したりしてもよいことを伝える。</p>	<p>[読む能力] ① ワークシート, フリップ</p>
三	5	<p>11 グループの紹介を聞き合い、感想を交流する。</p> <p>12 単元の学習を振り返って身に付けた力を考える。</p>	<p>○発表を聞いて、初めて知ったことやもっと学習したいと思ったことなどを書くように伝える。</p> <p>○ワークシート等を見直して単元で取り組んだ活動を振り返り、情報の集め方や読み取り方について身に付けたと思う力を書くように指示する。</p>	<p>[国語への関心・意欲・態度] ① 観察, 評価表, 学習計画表</p>

6-1 1 / 5時の指導計画

(1) 目 標

文語のきまりや音読の仕方を知り、古文を音読して、古文特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れることができる。

(2) 展 開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 :Cの状況の生徒への手立て:
導入	1 「竹取物語」に興味をもつ。 2 単元の目標を知る。 昔話とその元になった古典を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴について紹介しよう。 3 本時の目標を知る。	学習計画表	○「かぐやひめ」の話を出し、思い出させる。 ○日本最古の物語である「竹取物語」を学習し現在も読まれている昔話とその原典である古典とを読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介する活動を行うことを知らせる。	「竹取物語」の古文の冒頭部分を繰り返し音読し、古文のリズムに慣れよう
展開	4 「竹取物語」の冒頭部分の音読をして内容のあらましを知る。 [手順] 1) 冒頭部分の現代語訳を読む。 2) 教師の古文の冒頭部分の範読を聞く。 3) 教師の後について一斉に古文の冒頭部分を読む。 4) 原文を区切ってペアで読む。 5) 一斉に読み、その後個人で音読の練習をする。 5 教科書の「古典の仮名遣い」を読み、歴史的仮名遣いのきまりを知る。 6 「竹取物語」の古文の冒頭部分を音読しながら視写する。	ワークシート①	○「竹取物語」の冒頭部分の現代語訳を使い、内容を大まかに解説する。 ○教師が古文の冒頭部分を範読し、読み方を確認する。 ○繰り返し音読することによって、文語の響きや古文特有のリズムを味わわせる。 ○全員が暗唱できるようになるまで、練習する。 ○教科書の「古典の仮名遣い」を読ませ、現代仮名遣いとの違いやリズムを視覚的に確認できるようにする。 ○視写をする際、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを実感させるようにする。	【関①】 古典の文章に関心を持ち、進んで古典に触れようとしている。 【観察、学習計画表】 【言①】 文語のきまりや音読の仕方を知り、古文を音読して、古文特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れている。 【観察、ワークシート①】 音読が難しい生徒は、教師の範読の後につけて読ませて練習させる。
まとめ	7 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	学習計画表	○次時は「竹取物語」の内容をつかむことを知らせる。	

6-2 2 / 5時の指導計画

(1) 目 標

現在も読まれている昔話とその原典である古典の現代語訳を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取ることができる。

(2) 展 開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 「竹取物語」の冒頭を暗唱する。 2 本時の目標を確認する。	学習計画表	○「竹取物語」の冒頭を覚えているか、確認する。	
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「竹取物語」を読み、内容の違いや古文の特徴を読み取ろう</div>				
展開	3 「竹取物語」の現代語訳を読み、内容を理解する。 [手順] 1) 現代語訳を黙読して、大体的内容をつかむ。 2) 古文を黙読し、現代では使われない言葉に印を付ける。 3) 教師が音読する一区切りの古文に応じて、現代語訳の一区切りの部分を音読する。 4) 教師が音読する一区切りの現代語訳に応じて、古文の一区切りの部分を音読する。 5) 語注や解説、現代語訳を読み、竹取物語の内容について理解を深める。  4 「竹取物語」と自分が知っている昔話「かぐやひめ」の内容とを比べて、内容の違いについて発表する。		○文末の言葉の違い、現代では使われない言葉に印を付けながら読ませる。 ○古文と現代語訳を対照して、古文でも大体的意味がつかめるようにする。  ○語注や解説を手がかりに、文章の内容を捉えさせる。  ○昔の人は、なぜこのような物語を考えたのか、その当時の人々の暮らしぶりから想像できるものから見方や考え方について、現代の自分たちと比べて考えてみるよう助言する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                         【読①】現在も読まれている昔話とその原典である古典の現代語訳を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取っている。                          【観察、学習計画表】                     </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                         文中の語句の意味が確認できない生徒には、確認できない語句に印を付け、現代語訳と照らし合わせて考えさせる。                     </div>
まとめ	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	学習計画表	○本時で読み取った「竹取物語」と自分が知っている昔話「かぐやひめ」の内容とを比べて感じたことを「学んだこと・感想」の欄に書くよう指示する。 ○次時は、昔話とその原典である古典を読み比べ、内容の違いや古文の特徴を調べることを伝える。	

6-3 3/5時の指導計画

(1) 目標

- ・ 古典には様々な種類の作品があることを理解できる。
- ・ 現在も読まれている昔話とその原典である古典の現代語訳とを読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取ることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 学習計画表を確認し、本時の目標を知る。	学習計画表	○「浦島太郎」「一寸法師」「わらしべ長者」の絵本を提示して、古典と比べることを知らせる。	
<p>現在も読まれている昔話とその元である古典の現代語訳とを読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取ろう</p>				
展開	<p>2 「浦島太郎」「一寸法師」「わらしべ長者」の大体の内容を発表し合い、確かめる。</p> <p>3 絵本を手掛かりにして、グループで取り組みたい作品を決める。</p> <p>4 昔話の原典である古典の現代語訳を読み、自分の知っている昔話や絵本の記述との違いなど、気付いたことをワークシート②に書き出す。</p> <p>5 気付いたことをグループで出し合い、どういう点を紹介するのか、もっと調べたいことはないか等話し合う。</p>	<p>昔話の絵本</p> <p>現代語訳資料 ワークシート②</p>	<p>○「浦島太郎」や「一寸法師」は「御伽草子」,「わらしべ長者」は「今昔物語」が原典の古典であることを知らせる。</p> <p>○グループで、昔話の内容について知っていることを交流させながら作品を決めさせる。</p> <p>○選んだ古典の現代語訳資料を配布し、共通点や相違点に印を付けさせながら個人で読ませ、ワークシート②に気付いたことを書き出させる。</p> <p>○調べたいことは、学校図書館等を利用して調べることができることを知らせる。また、次の1時間は学校図書館で学習することを伝える。</p>	<p>【言②】 古典には様々な種類の作品があることを理解している。 【観察, 学習計画表】</p> <p>【読①】 現在も読まれている昔話とその原典である古典の現代語訳を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取っている。 【観察, ワークシート②】</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">現代語訳とそれに対応する絵本の記述を、短い一部分で取り上げ、比較させる。</p>
まとめ	6 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	学習計画表	<p>○本時で古典について初めて知ったことと、昔話と古典を比較して感じたことを、「学んだこと・感想」の欄に書くように指示する。</p> <p>○次時は学校図書室で学習することを伝える。</p>	

6-4 4/5時の指導計画

(1) 目 標

現在も読まれている昔話とその原典である古典の現代語訳とを読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取ることができる。

(2) 展 開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 学習計画表を確認し、本時の目標を知る。	学習計画表	○グループごとに学校図書館の学習机に座らせる。 ○時間配分を確かめさせる。	
<p>現在も読まれている昔話とその元である古典の現代語訳を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取る</p>				
展開	<p>2 昔話とその原典である古典を詳しく読み比べる。</p> <p>3 資料集や学校図書館の資料を用いて、昔話やその原典である古典について調べたいことを調べる。</p> <p>3 グループで調べたことを持ち寄り、紹介したいことを絞り込む。</p> <p>4 紹介したいことが分かるようにフリップを用意する。</p> <p>5 発表の役割分担を決める。</p>	<p>現代語訳資料 ワークシート②</p> <p>画用紙 マジック</p>	<p>○前時にグループで話し合ったもっと調べたいことや興味をもったことなどを確認させる。</p> <p>○生徒の興味・関心に応じて、古典の成立した時代背景や、その内容について解説をした本や文章を紹介する。</p> <p>○本の一部を読んだり、資料の一部を抜き書きしたりして必要な情報を集めることを指示する。</p> <p>○限られた発表時間（3～5分）でポイントを絞った発表をするよう注意を促す。</p> <p>○フリップは必要に応じて3～5枚を用意させる。</p> <p>○必要に応じて古典の一部を引用したり、音読したりしてもよいことを伝える。</p> <p>○グループ全員が、一役を担うように決めさせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【読①】現在も読まれている昔話とその原典である古典の現代語訳を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取っている。</p> <p>【観察，ワークシート②，フリップ】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>古典について解説した簡単な文章を紹介して読ませるなどして、初めて知ったことや興味をもったことをメモさせる。</p> </div>
まとめ	6 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	学習計画表	<p>○本時で古典について初めて知ったことと、昔話と古典を比較して感じたことを、「学んだこと・感想」の欄に書くように指示する。</p> <p>○次時は発表をすることを確かめさせる。</p>	

6-5 5/5時の指導計画

(1) 目 標

古典の文章に関心をもち、進んで古典に触れようとする。

(2) 展 開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 学習計画表を確認し、本時の目標を知る。	学習計画表	○発表の順番，位置，時間等を確認する。 ○発表の仕方については，既習事項を生かして，分かりやすく発表することを意識させる。	
昔話とその元である古典を読み比べ，その内容の違いや古文の特徴について紹介し合おう				
展開	2 グループごとに，昔話とその原典である古典を読み比べ，その内容の違いや古文の特徴について紹介し合う。 〔手順〕 1) 1グループが紹介をする。 2) 紹介を聞いて，初めて知ったことや興味をもったことを評価表にメモする。 3) 1～2名が質問したり，感想を述べたりする。 4) 次のグループが発表する。 ※ この手順で全グループが紹介する。	フリップ評価表	○声が小さかったり，話す速度が速すぎたり，フリップが見えなかったりした場合はその場で指摘し，改めさせる。  ○1グループの紹介が終わったら，評価表を書く時間を1分ほど取る。  ○質問が出た場合，紹介したグループが質問に答えられる場合はその場で答えさせる。答えられない場合は，教師が答えたり，調べることとして確認したりする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【関①】 古典の文章に関心をもち，進んで古典に触れようとしている。 【観察，評価表，学習計画表】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>評価表の記述欄には，紹介を聞いて初めて知ったことや興味をもったことを具体的に書くように指導する。</p> </div>
まとめ	3 古典について初めて知ったことや，もっと学習したいことを考える。  4 ワークシート等を見直して単元の学習を振り返り，身に付けた力を考えて書く。	評価表  学習計画表	○評価表の「学習を振り返っての感想」の欄に，古典について初めて知ったことや，興味をもったこと等を書かせる。 ○情報の集め方や読み取り方について身に付けた力を，単元で行った学習活動を根拠にして書かせる。	